

あいめーる

WINTER

愛隣館通信

平成 24 年 12 月 15 日発行
発行
社会福祉法人 愛隣園
障害者支援施設 愛隣館
発行責任者 三浦貴子
編集 広報チーム
キャリーピジョン

〒861-0551
熊本県山鹿市津留 2022
TEL 0968-43-2771
FAX 0968-43-2793
http://aileans.com
E-mail
ailins@ku.magma.ne.jp



(写真上・愛隣倶楽部於)

目次

心理臨床動作法教室	1
十二月を迎えて	2
県内の障がい者芸術展	2
地域支え合い体制づくり事業	2
声	3
ディケア下関一泊旅行	3
入居者福岡一泊旅行	3
あいめーる広場(愛隣館行事等)	4・5
新人職員紹介	6
クローズアップ愛隣館④	6
外部講師を迎えて④	7
家族の声⑤	7
月見の宴入選作品	7
入居者鹿児島一泊旅行	7
ぴあぴあと私	8
編集後記	8

心理臨床動作法教室

本年六月四日(月)より、月に二回、アクティビティ(日中活動)として、新しく心理臨床動作法教室が始まりました。動作訓練(療法)は、九州大学の成瀬悟策氏によって開発された脳性まひに対する心理学的な訓練方法です。

異常な筋緊張を弛緩させながら、動作を学習していく方法で、弛緩動作訓練、単位動作訓練、基本動作訓練、目的動作訓練が中心となっています。

ご指導して頂いている山田正三先生は、熊本大学卒業後、昭和六十一年、臨床動作法のスーパーバイザーとなられ、熊本春荘病院等で活躍されました。

利用者の方一人一人との対話を交わしながら進められていく、先生の熱心なご指導によって、余分な緊張が緩み、姿勢が正されていきます。

館長

三浦 貴子

二十五年前の開設時から続けている、ささやかなイルミネーションライトアップで愛隣館の十二月が始まります。

西欧の国々で、冬の寒い夜、道行く人々の心を温めようと各

家々が庭や窓辺に趣向を凝らす、クリスマス



内閣府障害者政策委員会のメンバーと
左から 新谷氏・氏田氏・三浦・藤井氏・勝俣氏

スの飾りとイルミネーション。人々の気持ちが伝わる灯りが本当に嬉しくて、温められた一人旅の記憶により始めました。

通りすがりの人々をはじめ、地域の方々、利用者の方々とスタッフ共に、光の下にいたわり合い、クリスマスシーズンを喜びたい気持ちです。漆黒の里の地の利で、わずかな光の映えるロケーションでもありますので。

アメリカ九・一の一の年、愛隣館の二十四日イヴの

パーティ(どなたでもお越し下さい)では、利用者の松島さんプロデュースの、イルミネーションで作られた自由の女神が大粒の光の涙を流しました。昨

年は、東北三・一への祈りを込め、「ユーレイズミーアップ(あなたに励まされて)」という曲を皆で歌いました。

私は、今まさに十二月十七日障害者政策委員会の意見取りまとめに向けて全力疾走の渦中にあり、何とか体調を保持して、やるべき務めを果たさなければならぬと直面する課題に必死ですが、クリスマスも大晦日も、皆に均等に訪れますので内心楽しみにしています。

今年は、広報チーム「キャリアピジョン」の活躍、天聴の酒蔵にての「さんぽ美術展」の開催等、利用者の主体的な活動が評価されたことで、愛隣館全体がエンパワメントされました。

また、スタッフの自発的な取り組みと、山鹿・植木消防本部の多大な協力により、「救急救命講習」の法人全体での実施、さらに「山鹿市障害者を地域で支える体制づくりモデル事業」の過程を通して、数々の新しい出会い、地域とのつながりが深められたありがたい一年でした。

至らなかつたところも忘れずに来る年へ望んでいきたいと思えます。

県内の障がい者芸術展



ディケア

松永 清孝

十一月二十日(火)～二十五日(日)まで熊本県立美術館分館にて『県内の障がい者芸術展』が開催

されました。愛隣館の入居者、ディケア、愛隣倶楽部、ぴあぴあの利用者あわせて合計四十二点の作品展でした。

見学に行かれたディケアの視覚障害者の利用者からは、「触った感覚では、皆さん年々上手になっていらっしやるね。私達の作品を観覧して感動されている一般のお客様に感謝しました」とおっしゃっていました。心に残った作品としてディケア利用の有働末義様の陶芸作品が選ばれ、大変喜ばれていました。

感動的な作品が多く、今後利用者者の創られる作品に少しでもお手伝いできたらと思います。



地域支え合い体制づくり事業

平成二十四年十月一日～翌年三月三十一日まで、地域支え合い体制づくりの事業を行っています。

住民が地域で安心して暮らせるため、安定し暮らしを維持する体制を構築・維持することを目的としています。

『二十四時間安心コール』『夜間看護オンコール』『緊急ステイ』対応のために、夜間帯や

休日も地域生活サポートセンターにコーディネーター等を配置して、体制を整備しています。地域の支え合い体制の構築に向け、民生委員の方や区長や地域サロン支援者等を対象に、研修会や勉強会を開催しています。

その他にも、市民自らの行動を起こせるように、私達が作成した山鹿市防災マップ掲載の避難場所を、障がいのある方々・高齢の方々と実際に検証することで、地域住民の方々への障がいの理解と意識を高めることを目的とした、地域ネットワークづくりの構築のための啓発活動も行っています。

声

今回ご紹介するのは、愛隣館入居者の寺田タカ子さんです。

平成元年の入居前から生け花をされていて、月に二〜三回ハウスヘルパーの中嶋美佐子さんが花材を取り寄せ、池ノ坊生け花教室が開催されます。

寺田さんにお話を伺ったところ「生け花をしている時が私にとって一番安らぐ時間です」と



笑顔でコメントを頂きました。

生けた花は、玄関に展示されています。

生け花は、水が温くなると花が長持ちしないので、氷を花器に入れる工夫もされていました。

気が付けば玄関に季節の花々が飾られ、来賓の方々や入居者、職員の間を彩らせています。

これからも愛隣館に、ひと時の癒しをお願いします。

デイケア下関一泊旅行

十一月五日(月)〜六日(火)の両日、デイケア恒例の一泊旅行がありました。当日は、三十一名(利用者・職員・講師)の参加者でした。

大型観光バスで下関を目指し、一路九州自動車道を北上しました。

まず、一日目は

大正ロマン漂う門司港レトロ・三井倶楽部での昼食(ふぐ雑炊)の後、その周辺を散策し、午後四時前に下関市内のホテルにチェックイン。入浴後の宴会では、ふぐ尽くしのお料理や、カラオケでおおいに盛り上がりました。

二日目は、朝十時にホテルを出発し下関の唐戸市場へ。見学、ショッピングの後、市場二階の食堂に



て豪華なお寿司の昼食を堪能して、二日間の行程を終え帰途につきました。

入居者福岡一泊旅行



ケア課

前田 真二

残暑が残る九月十八日(火)〜十九日(水)で福岡へ野球観戦をメインに旅行へ行ってきました。参加された利用者の中に今回初めて旅行に行かれる方がいらっしゃいました。数ヶ月前から楽しみにされていて、私と二人で旅行の計画を立てた事を思い出します。

今回の旅行は、ソフトバンクVS西武ライオンズの試合でした。シーズンも終盤戦で熱戦が行われました。結果は、五対一でソフトバンクの勝利でしたが、お一人だけ西武ファンの方がいらしたので一人寂しそうな顔をされていた事が印象に残っています。皆さん一泊二日の旅行を満喫されました。



月見の宴

九月二十八日(金)、仲秋の名月よりひと足早く、愛隣館食堂に於いて来賓の方々をお迎えし月見の宴が開催されました。

入居者、利用者、ご家族、職員が多数参加。三浦牧子名誉理事長の挨拶に続き、愛隣館入居者築地新さんの乾杯の音頭でお茶会が始まりました。

事前に応募のあった、月の部・雑詠の部の俳句と短歌(総数九十一首)が披露されました。(入選句・歌は、七頁に掲載しています。)

会も和やかに進み、「職員のみみりライブ」と称し、各部署の代表によるカラオケで盛り上がりました。

最後に、三菱総研高森賞、熊日新聞社若下賞、理事長賞・館長賞、各部門の入選句、歌の発表と表彰があり、理事長賞、館長賞、各句・歌の一席には、胸にくまモンのワッペンの付いた震災継続オリジナルバスタが贈られました。



第八回ふれあいピック大会

デイケア

古川 貴一



十月六日(土)、山鹿市カルチャースポーツセンターで、第八回ふれあいピック大会が行われました。

今年は、地域福祉部が初参加し去年より参加人数が増え、より多くの方々に楽しんで頂きました。

デイ利用者のUさんは「数十年ぶりの運動会に出られる」と数日前から楽しみにしておられました。

競技の方では、パン食い競争に参加され、ニコニコで大きく口を開けて上手にパンをGETしておられました。また、玉入れやフオークダンスにも参加されました。参加された利用者のみな様の、終始笑顔の絶えないふれあいピック大会になりました。



第三十四回山鹿・植木合唱祭

ケア課 田代 保奈美

九月二十二日(土)秋分の日、熊本市植木文化センターで行われた『第三十四回山鹿・植木合唱祭』に利用者二十五名、職員十五名、コールユニット、音楽サークル山鹿の皆様、お手伝い頂き参加しました。

曲目は『花』『ともだち讃歌』『わたしのほしいもの』の三曲です。毎回、合唱祭で歌う三曲目の『わたしのほしいもの』は、愛隣館に入所されている山口さとみさんが、自分の気持ちを綴られた詞で、言葉を発する事が不自由なさとみさんが、お母様と一文字一文字確認しながら、この詞を作られました。

長い間眠っていた詞でしたが、十数年後、ポニージャックスさんに曲を作って頂いたと聞いています。とても、素晴らしい歌になり、私たちが、今後も大事に歌い続けたい一曲となりました。

今回、利用者の方々も、さとみさんの歌で気持ちをひとつにし、この歌の思いを会場の皆様に届く様大きな声で歌う事が出来ました。歌い終わった後は、みんなに笑みがこぼれ、とてもいい表情でした。

最後になりましたが、ご協力頂いた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



あいめーる広場

山鹿豊前街道「さんぽ美術展」

十月二十六日(金)～二十八日(日)、山鹿湯の端美術会主催の『さんぽ美術展』が旧酒蔵「天聴の蔵」などで開催され、県内外から多くの方が来場されました。

この美術展は、サブタイトルを「障がいのある人もない人も出て生まれたアート」とし、障がいを持つ方々の社会参加と啓発活動の一助ともなりました。

一般の方々の写真や絵画にまじり、愛隣館のパステルアート教室参加者の方の個性溢れる作品や入居者の写真、愛隣館デイケア陶芸教室のくまモンや器などの力作や繊細な鉛筆画、愛隣倶楽部の利用者の方が、車椅子の目線で手にカメラを固定して撮った写真が展示されました。

愛隣館入居者の方や利用者の方も、展示会を見学。酒蔵の風情を楽しみ自分の作品や仲間の作品を見付けては、嬉しそうに観賞しておられました。



新人職員紹介



ケア課

米崎 みどり

七月より、愛隣館で勤務させて頂いている米崎みどりです。

介護職は初めてで、まだまだ不慣れな事も多く、失敗の連続で毎日あたふたしている私ですが、先輩職員の方々に丁寧に教えて頂き勉強の毎日です。

これからも自分のペースではありますが、しっかりと頑張っていきたいと思っておりますので、ご声を宜しくお願い致します。

クローズアップ愛隣館④



ケア課

石貫 栄嗣
えいじ

配属が一号館となり、二名の利用者の担当になりました。

担当になる事で利用者個人の事を深く知っていきようになりました。一日をどうやって過ごされているのか、欲しい物、興味があること...等。より過ごし易く、より楽しく日々を過ごして頂ける様、担当として職務に当たっていますが失敗も多く、先輩

方にアドバイスを頂きながらなんとかやっている状態です。

最近の出来事で印象に残っているのは福岡一泊旅行で、利用者と野球観戦に行ったことです。私自身、球場での観戦は初めてで、利用者よりも私のほうが楽しんでいたかもしれません。共に楽しむ事が出来、よい思い出になりました。

外部講師を迎えて④

デイケアパソコン教室講師

友枝 正海

デイケア「パソコン教室」は、毎週月曜日に開催しています。

パソコンではいろんなことができますが、受講される皆さんの「やりたいこと」に主眼を置き、皆さんそれぞれにパターンは違ってきます。

具体的には、入力方法は自由、初心者の方は、比較的簡単な文書作成から始め、技術がアップするにつれ、インターネットの活用などに入ります。ゲームや音楽



を楽しむ方、また、これまでに、自叙伝・エッセイ集・画集・料理本などを作成した方もいらっしゃいます。夏には、暑中見舞いはがき、年末が近くなると、年賀状の作成も行います。

ご希望があれば、その他の文書などの作成も、お手伝いします。

みんなで「パソコンライフ」を楽しみましょう。

家族の声⑤

デイケア利用者 高根 英子 長女

高根 久美子

「高根家の朝模様」

突然、デイケアスタッフの森川さんより「書いて下さい」と頼まれ、えっ！はあ?! 親子二人、皆様にお話出来るようなハプニングも何も無く、どうしましょ…。

考えた結果、高根家の朝の様子をちよつとだけ書く事にしました。とはいえ、普通の朝なんですけども。毎朝「おはよう」の挨拶を交わし、互いに出る仕事を、言葉を交わす事なく黙々とこなす。母は台所で、お茶の準備、私は神棚、玄関の掃除、一通りの事を終え、私は新聞を読み始める。すると母が、お茶をそっと置いてくれる。が、何故かいつも新聞の上へ置く。「わざとかよー」っと思いつつ「ありがとう」と一言。あ・うんの呼吸があるようで、若干のズレもある。まるで長年連れ添った老夫婦のよう…。

そんな我が家の朝模様でした。

月見の宴入選作品

理事長賞

送迎の バックミラーに 映る顔

目を輝かせ 笑顔あふるる

吉田 裕子

館長賞

金木犀 香をまといて 君が来る

岩下 力

熊日新聞社・岩下賞

この月で 我四十に入る 二年前

田中 鉄也

熊日新聞社・岩下賞

おばあちゃん いつも笑顔で ありがとう

大坂 恭子

三菱総研・高森賞

初盆に 月見て昔 偲ぶ夜

姉妹と灯籠娘 里帰り

松尾 隆一

三菱総研・高森賞

一枚の 写真に並ぶ 笑みまでの

来た道たどり 支え人想う

流 花

短歌

月の部

一席 通う道 浮かんだ月に 手を合わせ

今夜も無事にと エプロン締める

高野まゆみ

二席 のんびりと お月見出来る 虫の声

静かに聞ける 平和っていいな

伊豆永つる代

三席 おばあちゃん いつも笑顔で ありがとう

お月さまから そっと伝えて

大坂 恭子

短歌 雑詠の部

一席 朝露に 緑のカーテン 光りおり

パンの匂いが 満つる食卓

山口 博美

二席 真夏日の 夕日と共に 散歩する

チンチロリンの 涼しさや

原 照子

三席 愛隣の 仲間となりて 二十年

よろこび悲しみ 想い出あふるる

山口さとみ

俳句 月の部

一席 月見上げ 明日も頑張る 母として

河村 智美

二席 お月さま ゆびでクルクル

パステルアート

坂田 照美

三席 満月よ あなたどうして 照らされる

小川ハツ子

俳句 雑詠の部

一席 一個だけ 実ったかぼちゃ 味噌汁に

友枝 正海

二席 ちぎりに絵に 想いをよせて 花桔梗

吉本やす代

三席 鈴虫に 誘われ進む 車椅子

清島 千春

本館鹿児島一泊旅行

十月三十一日(水)〜十一月一日(木)の両日、入居者四名、職員四名、の計八名で、鹿児島一泊旅行に行きました。一日目は、

愛隣館を出発して、九州自動車道を南下し、「いおワールドかごしま水族館」で昼食をとり、夕方までゆつくりとした工程で、水族館見学をしました。



ホテルでの夕食では、黒豚のしゃぶしゃぶ、カニ

の食べ放題の二本立てと、超豪華ディナーを堪能しました。

二日目の、鹿児島市平川動物園では、滅多に見られないホワイトタイガーや「アラモ」を見る事が出来ました。風食をとった後、お土産を選んで、購入する事も、楽しみの一つです。

参加者からは「しゃぶしゃぶ食べた!」来年も、行先は決まっていなくても、また行きたい」「お土産を買うのが楽しみ」等々、一泊旅行を本当に楽しみにされている事が伺えました。

★ ぴあぴあと私 ★

ぴあぴあボランティア

測上 裕子

私とぴあぴあとの出会いは、五年前、知人の紹介で病院のソーシャルワーカーと一緒に門を叩き利用を決めました。

人が溢れかえり、笑い声と人の出入りが有り活気がありました。パソコン教室や絵手紙教室、また編み物教室と多彩な事を学び、外に出る事の大切さを知りました。

障害を

持つ者と
してぴあ
ぴあとお
会い、ぴあ
ぴあのお



所も一階から三階に移動して、スポーツまで出来た事や日帰りの旅行などを楽しんだこと。

そんな私が今はぴあぴあでボランティアをするまで元気になったことに、スタッフの方々を始め、仲間感謝して過ごす毎日であります。ありがとうございます。

お知らせ

障害者虐待防止法

10月から施行された「障害者虐待防止法」では、市町村に24時間体制の通報窓口が義務付けられ、家庭や福祉施設、職場で虐待されているか、されているかもしれない障害者を発見した全ての人が通報が義務づけられます。

立ち入り権限
10月から施行された「障害者虐待防止法」では、市町村に24時間体制の通報窓口が義務付けられ、家庭内虐待の場合、自治体に立ち入りの権限が与えられました。

通報義務
家庭や福祉施設、職場で虐待されているか、されているかもしれない障害者を発見した全ての人が通報が義務づけられます。

ヒューマン・ライツ委員会
(障害者虐待防止法委員会)
障害者虐待防止法は、障害者の虐待の防止、早期発見、被害を受けた障害者に対する医療や自立支援、加害者に対する支援を目的とされています。
この目的を達成するために「障害者虐待防止法」では、国や公共団体、障害者福祉施設等から障害者の虐待の防止のための責務を課しています。
本委員会においてヒューマンライツ委員会、市民社会は、より高レベルで障害者の虐待の防止に向けた取り組みを進めています。
「ヒューマンライツ委員会」では、内部研修や会議等を通じて、情報の取組に努め、情報が必要に応じて活用できる環境としていきたいと考えています。

ヒューマン・ライツ委員会 障害者支援施設 愛隣館
委託店 社 啓司
連絡先 Tel 0968-43-2771 Fax 0968-43-2793
メールアドレス h_r_allin@yahoo.co.jp

ヒューマン・ライツ委員会よりお知らせです。障がい者を虐待から守り、擁護者に必要な支援を行うために、平成二十四年十月一日から『障害者虐待防止法』が施行されました。

施行に伴い、愛隣館でもポスターを作り、各号館や地域福祉部の各事業所に掲示し、虐待防止や早期発見に努めています。

ポスターは、愛隣館のホームページ「あいりんの風」でご覧いただけます。

編集後記

師走に入り早いもので、今年も、残すところ後わずかになりました。

おかげをもちまして、広報チーム「キャリアピジョン」も二年目を迎えることが出来ました。広報チームが結成され、ゼロからのスタートで始まった「あいめーる」も回数を重ねる事に、各スタッフの仕事も板につき、以前に比べると、ホームページ・季刊紙の完成度が増しているように思います。

今年を振り返ると、様々な出来事がありました。継続支援ティッシュャツ事業に始まり、熊本日日新聞にも掲載された事、そんな出来事の中でも大きく記憶に残っているのが、全国の教材として使われる『介護職員初任者研修テキスト(仮)』に全国で見本となる施設として、愛隣館が選ばれ、広報チームも撮影に参加しました。これからも、利用者、当事者の目線で、見易い、分かりやすい季刊紙を皆様に紹介できる様に努めて行きたいと思えます。

あいめーるは、愛隣館のホームページでご覧いただけます。検索名は「あいりんの風」です。